

薬大の入学定員適正化を 厚労省検討会が初会合

厚生労働省の「薬剤師の養成および資質向上等に関する検討会」が7月10日に初会合を開き、薬剤師に対する教育や薬科大学のあり方などについて意見交換した。構成員からは、薬剤師の臨床研修の不足を懸念して、免許取得後に病院実習を義務づけること、薬学生の留年や教育の質の低下といった問題を考慮し、現在の入学定員を適正化すべきなどの声が上がった。

検討会では、医薬品医療機器等法の改正などで薬剤師に求められる役割が変化し続ける状況に対応するため、薬剤師の養成や資質向上に関する課題、需給調査などについて検討することとしている。初会合では、厚労省が薬剤師、薬学教育の現状に関するデータを示した上で、これら

課題について意見交換した。

宮川政昭構成員（日本医師会常任理事）は、医師と比べた薬剤師の臨床研修の不十分さを問題視し、「卒業後に最低でも2年ほど病院実習を義務づけることが重要だ。薬剤師の偏在問題も解決できる」と提案した。

赤池昭紀構成員（和歌山県立医科大学客員教授）は「薬学における臨床教育や将来の進路とは別に、薬剤師の資格を取った人が臨床経験を積むことが必要と感じる」と同調した。

政田幹夫構成員（大阪薬科大学学長）も「6年制の過程で臨床に関わることはほとんどなく、実務に必要な薬学は中途半端だ。ある程度の臨床を知らないと薬剤師業務はできない」と述べ、臨床経験の重要性を強調した。



一方、2019年度に入学定員の充足率が9割に達しなかった大学の薬学部が21学部を上るなど、薬学教育を担う大学の現状を疑問視する声も相次いだ。

安部好弘構成員（日本薬剤師会副会長）は、「入学定員が増加する中、定員割れや留年などの問題を抱えている事例もあり、薬学生を目指す人にとって望ましくない状況」と指摘した上で、「入学定員や在学生の総数が過剰にならないよう一定の規制をするなど、適正化を検討すべき」との考えを示した。

武田泰生構成員（日本病院薬剤師会副会長）も「卒業生が入学生の5割程度になってしまうのでは、入学時点である程度の制限をかける必要がある」と問題意識を示した。

野木渡構成員（日本精神科病院協会副理事長）は、薬剤師国家試験に合格できなかった人のフォローに言及。「薬学部を卒業した人は、テクニシャンなど何らかの薬剤業務ができるシステムを考えてほしい。まずは、卒業後にどんな経過をたどっているか調査すべき」と訴えた。

(2020年7月13日掲載)

病気と診断され、薬を飲み始めることによって変化する健康状態について、病態生理学や薬理学など、生物・医学的視点から考察することは大切です。しかしながら、それだけで十分かと言えば必ずしもそうではありません。前回、前々回と禁煙補助薬を取り上げ、その治療効果は薬による薬理学的な作用だけでなく、治療を受ける本人の関心や他者との関わり、つまり社会・心理的な影響も軽視できないというお話をしました。

服薬という行為に付随する健康への影響を考察する上で、興味深い研究(PMID:32019405)が報告されています。この研究はフィンランド在住の4万1225人を対象に行われたもので、慢性疾患用薬の服用開始に関連して、生活習慣がどう変化するのかを検討しています。

解析の結果、降圧薬またはスタチン系薬剤の服用を開始した人では、服用を開



医療法人徳仁会中野病院薬局
青島周一



健康意識は服薬で変化するのか

始していない人と比べて、BMI（体格指数）の増加、身体活動量の低下、肥満リスクの増加が示されました。他方で、飲酒量や喫煙者の割合は減少しました。

この関連性に因果関係があるかどうかについては議論の余地がありますが、「薬を飲んでから少々の食べ過ぎは許容範囲、でも飲酒や喫煙は健康のリスク」というような認識が強まったのかもしれない。

また、韓国在住の1万4655人を対象に、糖尿病の診断と健康管理への影響を検討した研究(PMID:29997134)では、糖尿病と診断された人はそうでない人に比べて、運動不足の人が少なく、大腸癌検診を受ける可能性が高く、インフルエンザワクチンの接種者が多いという結果

でした。糖尿病の診断をきっかけに健康への関心が高まったといえるかもしれません。

病気と診断されることや薬を飲み始めることは、生活レベルにおいて小さくない変化をもたらします。その影響は、薬による薬理学的な効果とは完全に独立したものであり、薬の効果を考える際には、生物学的レベルでの変化に加えて、生活レベルでの変化も考慮に入れる必要があります。

病気の要因を遺伝的要因（先天的要因）、環境的要因（後天的要因）に分けたとき、薬理作用に基づく純粋な薬の効果によってリスクを修正できるのは、環境的要因の中のほんの一部に過ぎないことに留意しておくこと、より多面的な臨床判断が可能となるように思います。

臨床に役立つ知識満載の『漢方実践書』



【医療用漢方製剤・構成生薬解説】

基礎からの漢方薬

第4版

- 「漢方医学」
- 「漢方の基礎理論」
- 「調剤、服薬指導」
- 「生薬・方剤」

などを図表やカラー写真を多数使い、わかりやすく解説！

著 金成俊
(横浜薬科大学教授)

B5判/340頁
定価 5,000円+税



詳細は「しゅびん」